

探究型学習への取り組み

SGH 事業対象コースである国際コースにおいては、従来から探究型学習に力を入れ、留学先での授業に備えてきたが、2014年3月にSGH アソシエイトに認定されてからは、コア（“KOA”はマオリ語で「幸せ」）を世界に普及できる人材の育成を目指し、「コアグローバルスタディーズ」（以下「KOA学」）を実施。立命館大学、京都外国語大学、関西学院大学、京都大学他の教授陣、また、山ばな平八茶屋、TFT International、（株）堀場製作所、WFP、UNDP など世界の最先端で活躍される諸氏のご指導を得て、単なる知識の詰め込み、あるいは他者から与えられた課題の探究ではなく、自分たちで世界を見つめ、そこにある課題をどのように見つけ、その解決策を考え出していくのに必要な8つの「コアグローバルスキルズ」の獲得を目指し、グループで協働してリサーチプロジェクトに取り組ませている。

1年次はグローバルナビゲーターとして必要なスキルをはぐくむことを目的として、「日本における食」（短期課題）、「アフリカ・アジアの食糧問題」（SDGsの視点からの長期研究課題）をテーマに取り組み、1年生ながら、関西学院大学総合政策学部リサーチフェアに参加し、大学生や大学院生に混じり、「優秀賞」や「総合政策学部長賞」などを受賞している。1年次の1月からは（株）堀場製作所の協力の下、「食を取り巻く環境とビジネス」をテーマに、ビジネスモデルキャンバスを使って売り手と買い手の双方にとって利のあるwin-winなビジネスモデルの構築を目指し、2年次におけるベトナム、フィリピンフィールドトリップで、その検証を行っている。

3年次では、それまでの課題学習の総まとめとして、東京大学と立命館大学が開発したグローバルシミュレーションゲーミング（GSG）に取り組み、コアグローバルスキルズをさらに高めることを目指している。国家アクターしかない模擬国連とは違って、国連機関やNGO、マスメディアのアクターもいるGSGは、開催初年度以来毎年フィリピンの姉妹校 Saint Pedro Poveda College の模擬国連部の生徒・教員17名の参加を得てよりリアルな国際的政治舞台のシミュレーションを経験するこ

とができている。

他教科への普及

探究型学習の学校内普及を意図して、特に対象コースである国際コースにおいて、入学時から英語科と情報科、国語科、社会科、数学科などの協働授業に取り組んでいる。これらの授業を通して生徒は、英語を「学習教科」としてより「コミュニケーションツール」として体感するようになり、今年度、国語科、理科、数学科の教員がそれぞれの教科で「SDGs」研究を導入することにしたというように、教員は、この取り組み以外の授業においても探究型学習の手法を導入するようになっている。

他コースへの普及

中学校での取り組みとして従来から総合的な学習の時間を土曜日に設け「地球学」という探究型学習を実施している。また高等学校では特進ADVANCEDコースでSGHへの指定を機に京都先端科学大学との連携の下「Science Global Studies」を実施し、毎年優秀グループの表彰を行っている。最優秀グループは私立中学高等学校理科研究会主催の理科研究発表会・研究発表の部で最優秀の京都新聞社賞に輝いている。

学外への普及

年間2回の課題研究成果発表会、並びに教員の研究成果を共有するリトリート大会を通して、本事業の成果の発信に取り組んでいる。さらに地域への普及活動としては、地元公立中学へ、教員や生徒、卒業生が向向き、課題研究成果やフィールドワーク経験談、社会奉仕活動の事例等を紹介する国際理解教育出前授業を実施している。海外への普及としては、現在8か国、13の教育機関が加盟している、Global College Networkで、本校が発起人となり、教員総会に加え、各校の選抜生徒が集い、世界が抱える課題について審議する Student Ambassador 会議を毎年開催している。成果その他については平成30年度の研究報告書を参照されたい。